

社会科 学習指導案

貝塚市立中央小学校

1. 日 時 令和7年11月27日(木)第5時限 13:40~14:25

2. 場 所 第3学年I組教室

3. 学年・組 第3学年I組(34名)

4. 単元名 火事からまちを守る (使用図書・教科書・教育出版)

5. 単元の目標

○消防署の働きについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、具体的な資料を通して、必要な情報を調べ、まとめる技能を身につけるようにする。

○消防署など関係機関の相互関連や、人々の生活との関連、そこに従事する人々の働きについて考え、考えたことを表現する力を養う。

○消防署の働きについて、主体的に学習課題を解決しようとする態度や、よりよい社会について考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、地域社会の一員としての自覚を養う。

6. 単元で取り上げる言語活動

・学校にある消防設備のはたらきを調べ、自分が一番大切だと思う設備とその理由を伝え合いながら、消防設備どうしのつながりに気づかせる。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・消防署の分布や消火栓や火災報知器、消防水利、消防団倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通信指令室を中心とするネットワークなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、消防署や地域の人々の諸活動を理解している。 ・調べたことを白地図や関係図にまとめ、消防署を中心に警察署など関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火事などの防止に努めていることを理解している。	・消防署の分布や消火栓や火災報知器、消防水利、消防団倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通信指令室を中心とするネットワークなどに着目して問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。 ・わかったことを関連づけたり統合するなどして消防署を中心とするさまざまな関連機関の連携や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	・地域の人々の生命や財産を脅かす火災から、安全を守る働きについて予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

(省略 当日資料には記載)

(2) 教材観

社会科「火事からまちを守る」の学習では、消防署や消防士の働きだけでなく、地域や学校にある施設・設備や仕組みに注目することを通して、安全なまちづくりの大切さを学ぶことができる。特に、学校にある消防設備は子どもにとって身近であり、実物を見たり使い方を体験したりすることで、実感を伴った理解が可能となる教材である。

また、消防設備は単体で機能するのではなく、相互に連携して人々の安全を守っている。火災報知器が火事を知らせ、スプリンクラーや消火器が初期消火を行い、防火扉や避難経路が安全な避難を助けるといったつながりを考えることで、子どもたちは「まちを守る仕組み」の全体像を捉えることができる。

したがって、本時の「大切な消防設備を考える」という学習課題は子どもたちに議論を促し、結果として「一つではなくすべてがつながり合って安全を守っている」という本質的な学びにつなげることができる良質な教材的価値をもつ。

(3) 指導観

社会科の学習においては事実を覚えるだけではなく、子どもたちが自分の考えをもち、他者と交流する中で学びを広げ、深めていくことが求められる。本時では、「大切な消防設備」という対立の生まれやすい課題を設定することで、自然に根拠をもった発言や友だちの意見に対する質問・反論が生まれ、言語活動が活発になると考えられる。

教師は子どもの多様な意見を受け止め、黒板に整理して見える化することで、意見の共通点や違いに気づけるように支援する。また、個々の施設・設備の価値を比較するだけでなく、「つながり」や「協力」という視点にたどり着けるように問い返しを行い、学びを深めていく。

こうした授業を通して、子どもたちは消防施設・設備に関する知識を得るだけでなく、社会を支える仕組みや人々の工夫への関心を高め、自分たちの生活と安全に関連づけて考えることができるようになる。

9. 指導と評価の計画(全9時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	・火災現場のイラストを読み取り、誰がどのようなことをしているのかを発表する。 ・市内の消防署の分布図を読み取り、わかることを発表する。		○	○	市内の消防署の分布図を読み取り、市内に多数ある理由を考え表現している。(ノ)(発) 【思判表】
2	火災現場の写真を読み取って学習問題をつくり、消防署の働きを調べる学習の見通しを立てる。		○		火事が発生したときの消防署の対応を取り上げて学習問題をつくり、表現している。 (発)(ノ)【思判表】
3	消防署を見学して、消防自動車や防火服、迅速な出動の工夫などについて調べる。	○		○	消防署を訪ね、消防自動車や設備などを調べて必要な情報を集めている。(発)【知技】
4	119番の電話はどこにつながり、火災に対してどのような機関と連携・協力しているのかを調べる。	○		○	119番の通報の仕組みを捉え、緊急時における関係機関との連携や協力について理解している。(発)(ノ)【知技】
5	消防や救助の仕事をする人の話を聞いたり、勤務時間の表を読み取ったりして、火災が発生していないときの消防署の仕事について調べる。 消防団の取り組みについて調べる。	○		○	消防署員の日常的な仕事や、職員の勤務体制について理解している。(発)(ノ)【知技】

6 7	学校の消防設備を調べて配置図にまとめ、先生の話から学校における消防の取り組みを調べ、まとめる。	◎			学校の消防設備について、設置場所や役割を調べる。 (発)(ノ)【知技】
8 本 時	学校にある消防設備の中から大切だと思う消防設備を話し合う。		○		友だちの意見をもとに、複数の設備のつながりに気づいて考えを広げたり、深めたりしている。(発)【思判表】
9	中央小学校の消防施設図鑑をつくろう。	◎	◎	◎	学校の消防設備について、設置場所や役割を調べ、図鑑にまとめる。
10	消防署のはたらきについて、消火と防火の面からまとめ、標語をつくる。		○	○	火事からまちを守るはたらきについて、関係機関の連携を中心に関係図にまとめ、大切だと考える内容を標語に表している。(発)(ノ)【思判表】 学習したことや学び方をふりかえり、これからの学習に生かそうとしている。(発)(ノ)【主】

10. 本時の展開(8/10時間目)

(1) 本時の目標

学校にある消防設備について、自分の考えを根拠をもって説明したり、友だちの考えと比べたりする活動を通して、それぞれの施設の役割や、消防設備同士がつながり合って学校や地域の安全を守っていることに気づくことができる。

(2) 本時の評価規準

・「大切な消防設備」の根拠を明らかにして発表し、意見を比較・交流する中で、消防設備同士のつながりに気づく。

【思考・判断・表現】

・自分の考えを進んで表現し、友だちの考えを取り入れながら学びを広げようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 困難度査定とその対応策

・消火器や火災報知機など名称は知っていても、「どう働くのか」「なぜ必要なのか」が十分に理解できない。

→授業の導入で写真を提示し、簡単に役割を確認する。

・「大切だと思う」までは言えるが、その理由を具体的に述べるのが難しい。

→「なぜそう思うの?」「もしそれがなかったらどうなる?」と教師が補助的に問いを投げかけ、理由を引き出す。「ワークシートに「大切な理由」を書く欄を設け、整理してから発表させる。

・発表を聞いても自分の考えを修正・発展させることができない。

→話し合いの後に「友だちの意見で気づいたこと」「自分の考えが変わったこと」を書き残す時間を設け、ふりかえりで共有させる。

(4) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 10分	○学校にある消防設備の写真を黒板に掲示する。	○消防設備のはたらきを確認する。 ○自分の知っている消防施設だけにとらわれないように写真を提示して発想を広げられるようにする。	
	めあて 学校の消防設備のはたらきについて話し合おう。		

	○「大切である消防施設」を選んで、その理由を考えよう。		
展 開 30 分	○移動しながら、ペアをつかって「大切だと思ふ消防設備」について話し合う。	○交流活動前に、意見の伝え方や聞き方のフレーズを提示し、誰もが安心してやりとりできるようにする。 ○ワークシートを真ん中に置いて説明させる。	
	○話し合って自分の意見を発表する。 ○まとめを書く。 「どれか一つが欠けても命は守れない。」 「すべてが大切である。」 ○消防設備を使う上で、自分にできることを考える。	○発表時に 「もしこの設備がなかったらどうなる？」 「この設備がはたらくと次にどんなことが起こる？」 などの問いを投げかけ、関連付けを意識する。 ○発言したことを黒板に書き出し、矢印やしるしを書いて「消防設備同士のつながり」を可視化し、全員で共有できるようにする。 ○まとめは子どもたちの意見をひろう。 まとめでは、「どれか一つが欠けても安全は守れない」視点を大切にする。	1つの消防設備に注目するのではなく、友だちの意見をもとに、複数の設備のつながりに気づいて考えを広げたり、深めたりしている。 (発)【思判表】
5分	ふりかえりを書く。		

(4) 本時における具体的な子どもの状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

十分満足できる(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
学校にある複数の消防設備の役割を理解し、友だちの意見を取り入れながら設備同士のつながりに気づいて考えを深め、自分の考えを、根拠をもって表現し、安全を守るために欠かせないことを理解している。	学校にある消防設備の役割を理解し、一つの設備について説明することができる。友だちの意見を聞きながら自分の考えを表現し、消防設備の大切さについて自分なりの考えをまとめている。	ICTを活用して自分の考えを可視化し、それをもとに交流できるようにする。また、発言が難しい児童には、「書いたことを読むだけでもよい」と伝え、安心して参加できるようにし、必要に応じて教師が問いかけを行い、考えを広げられるようにする。

11. 板書計画

め 学校にある消防せつびのはたらきについて話し合おう。

けむり
感知器
の
写真

ねつ
感知器
の
写真

消火栓
の
写真

消火器
の
写真

防火扉
の
写真

各消防せつびが大切な理由を書くスペース

まとめ

学校にある消防せつびは1つでもかけていたら
命を守れない。
どの消防せつびも大切。

自分たちにできること

あそびで使わない。

消防せつびの近くにはものを置かないように
する。